（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2770103758		
法人名	社会福祉法人大阪福祉会		
事業所名	ハピネス金岡グループホーム		
所在地	堺市北区金岡町2725番地		
自己評価作成日	平成23年3月28日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2－1－8　親和ビル4階
訪問調査日	平成23年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域ごとの交流を大切にしており地域の学校での運動会の見学や秋祭りの見学、更にはボランティアの協力による春秋の大泉緑地への散歩に出かけている。また、日常においては利用者一人一人の出来る事を活かしたケアを実施しており穏やかに毎日を過ごせて頂ている。庭で野菜や花を利用者と共に水やりなどして育てたり、収穫も共に行って達成感も味わえるように努めている。季節毎の食材を使った料理も企画を立てて皆様にも調理の手伝いもして頂くようにしている。また、菜の花摘みやみかん狩り、さつま芋掘りなどの季節を感じれるような企画も立てて皆様と収穫する楽しみも味わえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成13年に堺市からグループホームの事業設立を呼びかけられて、「みずきの里」が開設された。その後、高齢化が進み平成17年に「さつきの里」が別棟に増設された。診療所、特養が併設されて緊急時の連携体制は蜜に図られている。周囲は田畑が見渡せる田園風景があり、利用者は四季折々の草花に触れ、五感を心地よく刺激する散歩を楽しめている。前庭や農園での季節の作物収穫を味わえる園芸療法や音楽療法を取り入れて精神的・身体的な安定と安らぎを目指した支援をしている。事業所は地域に開かれたホームを目指して地域の高齢者、介護している人に毎月「高齢者おたっしゃ教室」の開催や、災害時の地域避難場所として施設から消防署に申し出たり、市内中学生の職場体験の実習生を引き受ける等理念の方針に沿う地域密着の交流に取組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作りリビングに分かりやすいように掲げスタッフはもちろん入居者様や家族様にもわかるように掲示している。	理念に「地域交流を大切に、愛される施設、心ある介護」として独自の理念を作り、目に付きやすい広いリビングに掲げている。職員は会議の時、お互いに確認し合いながら理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で秋祭りの見学や地元の小学校で運動会の見学、中学校からの職場体験の受け入れをしている。毎日近隣への散歩を欠かさず行い道で出会った方々には挨拶もおこなっている。	自治会は加入していないが、散歩の途中に挨拶を交わしたり、お野菜を頂いたり近隣住民とは日常的に交流している。夏祭りの太鼓台祭りはホームを休憩場所に提供したり「高齢者おたっしゃ教室」を毎月開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者おたっしゃ教室を毎月開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みについての報告を行い、それに対する意見を参考に日々の業務に活用するように実施している。	昨年は6回開催された。メンバーは地域民生委員、地域包括支援センター、知見者、家族代表、利用者、施設長、計画作成担当者で構成されている。報告に対し意見、要望、情報提供など双方向的に話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区のグループホーム連絡会に毎月参加して情報交換や意見交換をしている。	毎月のグループホーム連絡会には地域包括支援センターの参加もある。研修や情報提供、写真パネル展示などで事業所の活動内容の発表の場を頂くなど協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修やスタッフ会議を通してスタッフ間での取り組みについて確認をしている。玄関、居室の鍵はかけない取り組みをしている。	ホーム内の玄関、居室の施錠はしていない。職員は研修や会議などで、身体拘束の内容と弊害を認識している。身体拘束を必要としない状態の実現に法人全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内での研修やスタッフ会議で人権についての勉強会を行い理解を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	北区グループホーム連絡会での成年後見人制度についての研修会があったが、その際に学んだ事をスタッフ会議の場で研修をおこなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり契約までに理解と納得を得れるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しておりまた、家族会を開催して家族様との意見交換の場として意見などを参考にしている。普段の面会時などにも家族様とも話す機会を設けて意見を聞き出せるようにしている。	家族は訪問時や運営推進会議、家族会の時に意見を話している。家族の意見要望は積極的に傾聴する努力をしている。来られない家族には電話連絡をして意見等聞いている。介護相談員の受け入れもしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて意見を聞き検討している。また、普段のスタッフとの会話の中からでもスタッフの提案や思いを聞き出せるようにしている。	年3回の個人面談を行って職員の意見、要望、提案を聞いて運営に反映させている。職場の風通しがよく、職員の定着率もよい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務状況を把握しまた、スタッフ会議には出席することで意見や要望を確認して良い方向へ進展するように助言や指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマに沿った研修を法人内で実施している。各部署でのテーマの担当振り分けも行うことで勉強の機会にもなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡会を通して情報交換や意見交換の場として活用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく安心して生活が出来るように初期の段階から話しを重ねて不安を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時点からよりよく過ごせるように家族様の意向や不安に感じていることなどを伺い解決できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅支援センターとの連携をとり適したサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の生活状態や家族関係などの情報も得て本人様の生活歴を尊重した生活を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の意向やお話しも聞いて共に考えている。また、施設での行事には参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な場合を除いては家族様以外の方でも面会をして頂いている。	併設のディサービスに来られた友人が時々訪ねて来られる。、馴染みの喫茶店や美容院へ出かけたり家族と墓参りに行ったり、選挙にもでかける。制限せず閉ざされたホームにしないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活で孤立しないようにまたは、入居者どうしでのトラブルには注意をしつつ他者との関わりも大切にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退居となった場合でも病院の相談員とも連絡して家族様には不安を与えないようにしている。再入居などについては支援センターでフォローをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認して意向にそった暮らしができるように支援している。また、家族面会時の何気ない会話から希望や意向を聞きだせるように努めている。	家族からの聞き取りを参考にする場合もあるが入浴介助や職員と二人になった時に心を開いて本音で話されることがよくある。その時の意向を大事に受け止めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表や個々のケース記録を活用して日々の過ごし方を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの開催を通して他ユニットスタッフも参加して情報の共有に努めている。また、家族の面会時には本人のことを話すことを心がけている。	本人と家族、ユニットリーダーなど関係のある人たちとの話し合いを参考にし、ケアマネジャーと計画作成者が主になって介護計画を作成している。出来上がった介護計画は本人・家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録をもとにカンファレンスを行いケアプランの見直しをしている。ケアをするスタッフが記録物に目を通す事を徹底して統一したケアを出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスでの行事に参加行っている。また、身体的や経済的の要望については特養と連携して柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌のボランティアの方が定期的に来所して下さり楽しい時間を過ごしている。パン販売も月2回あり皆様楽しみにしている。また、地域の学校行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所がかかりつけ医となり連携体制をとっている。入居前のかかりつけ医の往診を受けている方もおられる。	入居前のかかりつけ医を希望される場合はそのように尊重している。併設の診療所をかかりつけ医とする場合は本人、家族ともよく話し合って決めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所と連携をとり日々の健康管理をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や医師とも連絡をとり状態の把握を行い早期退院を出来るように支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は対象者はいてないが、入居時の契約時に医療体制及び終末期の対応について説明をおこなっている。家族様には状態の変化が生じた際には随時報告を行うようにしている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針は「看取りに関する指針」で詳しく説明をして同意を得ている。 これまでに終末期の医療を必要としない利用者3人の見取りがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修やスタッフ会議で緊急時の対応についての勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時を想定にした避難訓練を実施している。年2回は消防署の立ち合いのもと訓練を実施。	年2回の消防署立会いの訓練は実施している。非常災害時の研修やレポート提出、昼夜想定の自主訓練も毎月実施されて職員の防災への意識は高いが、地域住民の協力も得たレベルの高い体制の備えが欲しい。	何時起るか解らない災害を考慮して防災計画や訓練は最悪の事態を想定して、実効性のある体制つくりを目指されることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食べこぼしや排泄の失敗についてはさりげない声かけや行動で本人のプライドを傷つけないように配慮して対応をしている。	職員は排泄などの失敗に気づいたら「汗をかいたんだね」と言葉をかけるなど、本人のプライドを傷つけないように心がけるなど。利用者への言葉かけに気をつけるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己表現が困難な方でも本人の気持ちをくみ取れるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人での生活リズムを尊重している。塗り絵や折り紙、歌やビデオ鑑賞などを楽しまれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔やブラッシング、髭そりなどを本人の希望や意向を踏まえて支援している。毎月の美容室、散髪もあり意向も確認して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的には一人一人の出来る能力を把握して出来る部分をスタッフを一緒に取り組むなどをしている。	利用者と職員は同じものを食べている。食事の準備や後片付けは個々の残存能力を把握し　出来ることを手伝ってもらっている。ホームの前庭で出来た新鮮な野菜がおいしい食卓の一品になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては多め、少なめ、やや少なめなどを個人に合わせて提供している。水分についてはコーヒーなどお茶以外でも10時やおやつ時に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを声かけして促している。必要な方には介助もしている。また、義歯の方には就寝前に外して頂き義歯洗浄を毎日行っている。定期的な歯科往診を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけを行いトイレに行き排泄するという事を意識していただいてます。また排泄のパターンや直前の行動も把握してさりげないこ声かけを心掛けている。	利用者の排泄パターンを把握して定期的に声かけをしている。時間誘導でパットなどを外すようにしている。頻繁に尿意を訴える人には医務と相談して薬を出していただき改善されたケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩やラジオ体操を行い身体を動かす機会を作っている。食事面でも野菜を多くしたりヨーグルトなどを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが午前か午後の入浴かは本人の意向を尊重して決めている。	入浴は基本的に週3回で、時間も本人の様子を見ながらの入浴である。入浴剤を入れての入浴なので利用者はこの時間を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めているが就寝時間は自由である。また、畳部屋もあり畳で布団を敷いて休むなど個人の習慣も尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋がありそれを定期的に確認できるようにしている。また、臨時薬や追加の薬については看護師の指導のもとスタッフと確認して内容理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様との関わりや本人と関わりの中で一人一人の楽しみや好きな事を引き出してケアできるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事以外でも地域の喫茶店に出かけたり食材などの不足がでれば近隣のスーパーに買い物に行くなど行っている。また、みかん狩りや芋ほり、菜の花見学などの季節に合わせた外出も計画している。	天気の良い日は近くの田や畑のあぜ道を散歩したり、食材の買出しや季節の花見、地域の祭りに参加している。ホーム内に閉じこもるのでなく、積極的に外気に触れ、四季の移り代わりを肌で感じてもらい、季節感を忘れないように支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	飲食や外出した際などはスタッフではなくて本人に支払いをして頂くなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはスタッフが電話をかけ本人とお話しが出来るようにしている。また、家族からの電話でも希望があれば本人との話す時間も作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に旬の野菜などを使った料理を作っている。また毎月の壁飾りも季節感が伝わるようにしている。	共用空間に天窓があり、みんなの集まるリビングからは広い田畑が見渡せ開放感がある。窓際には植物が置かれ、壁には常時写真や利用者の作品が掲げられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で自室やソファーで過ごせるようにしている。また、気のあった方どうし居室で過ごされていることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使われていたタンスや家族の写真を持ってきていただいており居室が本人にとり過ごしてきた環境に近くなるようにしている。	明るく広い居室からは四季の農作物が広がっている田園風景が見える。部屋にはなじみの写真や利用者の手作りの作品などが飾られて、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレには手すりがありバリアフリーになっている。車椅子の方でも自由に動けるようになっている。トイレには分かるように表札をしている。		